

坂中最後の生徒会長として

坂野中学校3年 小松 慎大朗

坂野中学校は戦後に開校され、69年の歴史があると聞きました。自分たちの通っている学校に、こんなにも歴史があることを知り、驚きと、重みを感じました。

69年という長きに渡って、多くの先生方や先輩方、そして僕たち在校生を見守ってきてくれたこの校舎には、たくさんの思い出が刻まれています。そんな思い出が詰まった学校が閉校してしまうのは、やはり寂しいです。しかし、小松島南中学校として生まれ変わり、また、新たな歴史を刻んでいくことを嬉しく思います。

僕はこの坂野中学校に入学してから3年間、生徒会役員として活動してきました。今年は生徒会長を務めました。会長としての責任感とともに、「坂中最後の年」ということを意識して、1年間全力で活動してきました。活動するなかで苦労したり、困ったりしたこともありました。しかし、振り返ってみると、先生方や友達、先輩や後輩など、いつも誰かがそばにいて、支えてくれたことに気付きました。そして、その関わりの中で、さまざまな行事を一緒に作り上げていくことで、絆を深めてきました。

体育祭ではどのクラスも優勝を目指してクラスで団結し、朝や放課後に練習をしてきました。この協力し合う雰囲気が、今でも忘れられません。

文化祭では、模擬店やダンス、吹奏楽部による演奏があり、毎年とても盛り上がります。その中で特に印象に残っているのは、先生方が生徒と一緒に寸劇をしてくださったことです。普段は見られない先生方の意外な一面が見られ、体育館が笑いの渦に包まれます。このように坂野中学校には笑顔が絶えず、生徒同士の絆、そして、先生方と生徒との絆がとても強いのです。

また、生徒会では行事だけでなく、日々の活動として、朝の「あいさつ運動」を積極的に行いました。大きな声で挨拶することで気持ち良く、学校生活をスタートさせて欲しいという思いを込めて挨拶をしました。最初は挨拶をしなかった人もいましたが、続けていくうちに、いつの間にか挨拶の声が自然に飛び交うようになっていきました。この活動を通して、何事も続けていくことがとても大切なことだと実感できました。

この坂野中学校で過ごした3年間は本当に実り多いものとなりました。この校舎で仲間と共に勉強やスポーツに励み切磋琢磨したこと。行事を通して団結できたことは、僕たちの心に確かに刻まれています。僕たちは坂野中学校最後の卒業生という誇りを忘れずに、これからも自分の夢の実現に向けて努力し、成長していきたいと思います。

